

小規模事業者

経済動向調査報告書

<那珂市>

2022 年 4 月～6 月期

那珂市商工会

1. 目的

那珂市内の小規模事業者の景気動向等を分析し、その詳細な実態を把握し、市内小規模事業者に開示することで、経営に活用していただく。

2. 方法

市内の製造業、建設業、小売業（卸売業を含む）及びサービス業の小規模事業者から約 15 社をサンプルとして選出し、聞き取り調査を行う。

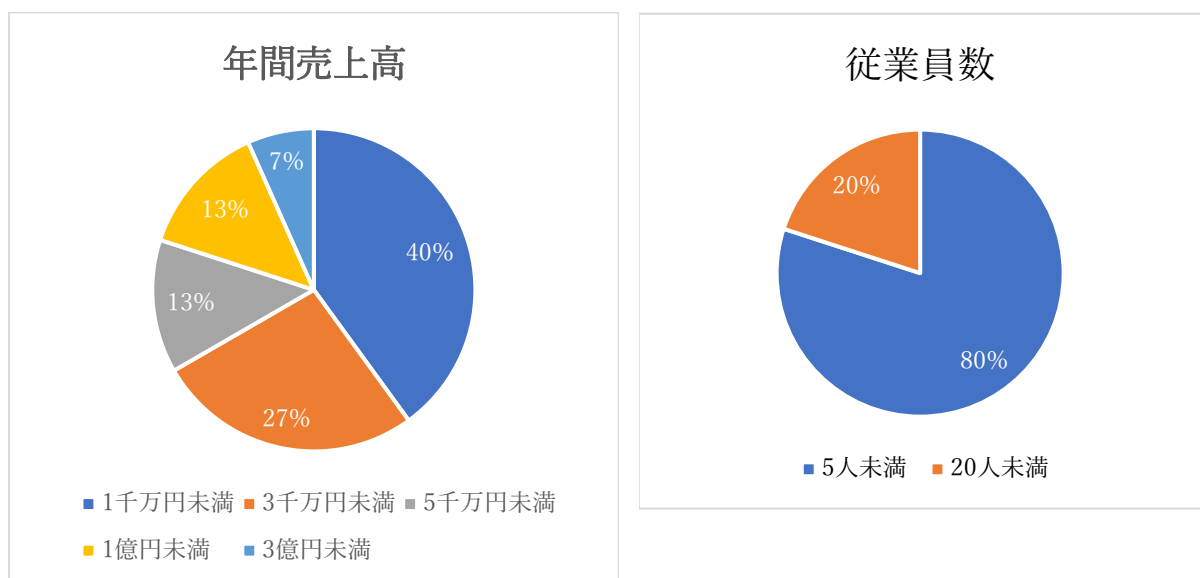
3. 調査事業者

① 製造業	3 社
② 建設業	2 社
③ 小売業（卸売業を含む）	4 社
④ サービス業	6 社

4. 調査項目

- ① 売上高、販売単価、経常利益、資金繰り、人材確保及び景況感を聴取し、業種別に比較。
- ② 現在認識している経営課題を調査。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大及び原油価格高騰の経営への影響を調査。

5. 事業者の規模



I. DI 分析

表 1：2022 年 4 月～6 月の DI

	全体	製造業	建設業	小売業	サービス業
売上高	-13.3%	0.0%	-50.0%	-25.0%	0.0%
販売単価	-33.3%	-33.3%	-50.0%	-25.0%	-33.3%
経常利益	-26.7%	0.0%	-50.0%	-50.0%	-16.7%
資金繰り	-26.7%	-33.3%	-50.0%	-50.0%	0.0%
人材確保	-20.0%	-33.3%	-50.0%	-25.0%	0.0%
景況感	-33.3%	0.0%	-50.0%	-50.0%	-33.3%

- まだ全項目マイナスが続いており、前回（2022 年 1 月～3 月）と比較すると、特に販売単価の低下が目立つ。
- 相変わらず、建設業及び小売業の業況低迷が顕著であり、前回から改善が見られない。
- 一方で、サービス業については、売上高の低迷が落ち着きつつある様子が窺える。ただし、販売単価は減少し、経常利益も伸び悩んでいる。

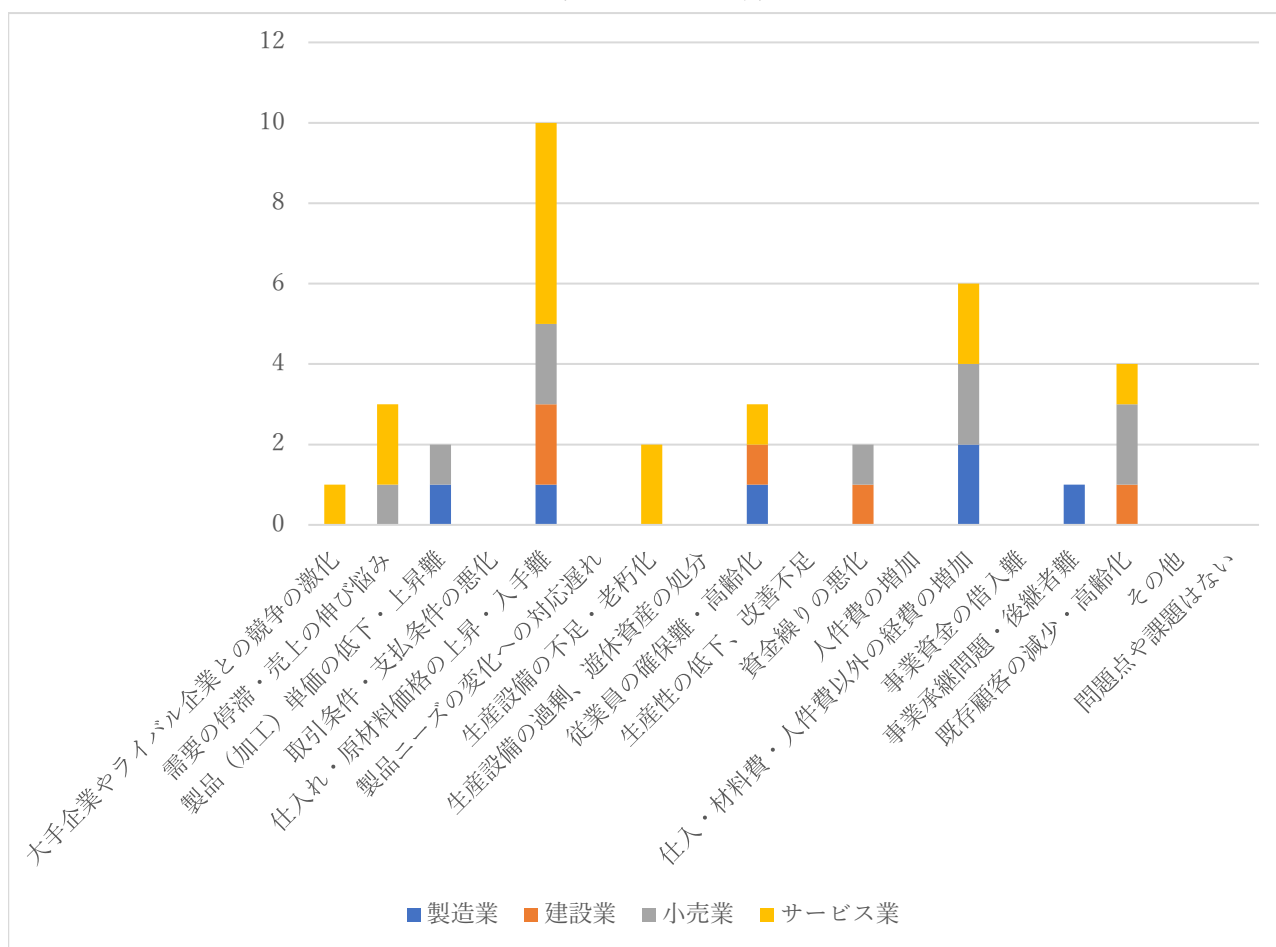
DI（業況判断指数）

景気局面の判断や、予測と景気転換点の判断に利用される景気動向指標のひとつ。業況下や景況感といった明確に数値化しにくい対象を、比較化することで景況を判定する。

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものをパーセンテージで表し、プラスは良好、マイナスは悪化として、その度合いで判定する。

II. 課題意識調査

図1 2022年4月～6月の課題意識



- 前回と比べても、仕入れ・原材料価格の上昇・入手難はさらに悪化しており、特にサービス業において増加している。
- また、その他の経費増についても変わらず高い水準にあり、一方で従前に比べ競争や需要の停滞・売上の伸び悩みは落ち着きを見せている。コロナ禍の収束に伴い需要の回復も垣間見られ、一方でウッドショックや半導体不足に加えウクライナ情勢やこれらを背景とした原油価格等の高騰が収益圧迫につながっている様子が窺える。
- DI 値では、サービス業の売上の下げ止まりの一方で経常利益が伸び悩んでいたが、その背景には原材料や光熱費等の経費増があったことが推測できる。
- 経費増が顕著になる中、資金繰りも少しずつ悪化している様子も窺える。

III. コロナ禍及び原油価格高騰の経営への影響

図2 コロナ禍の具体的な影響の推移

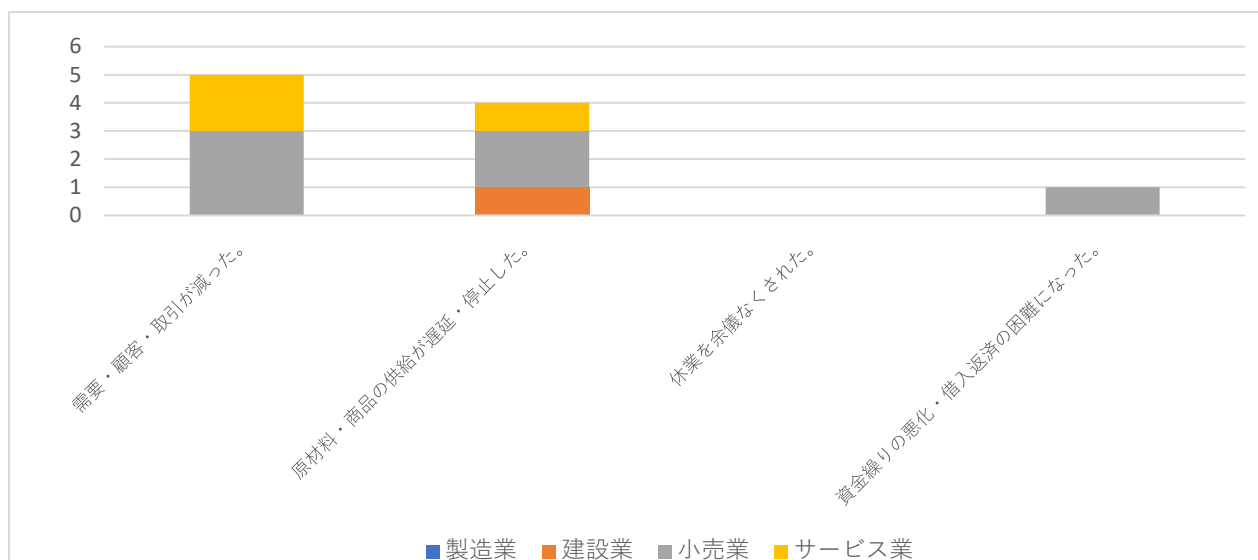
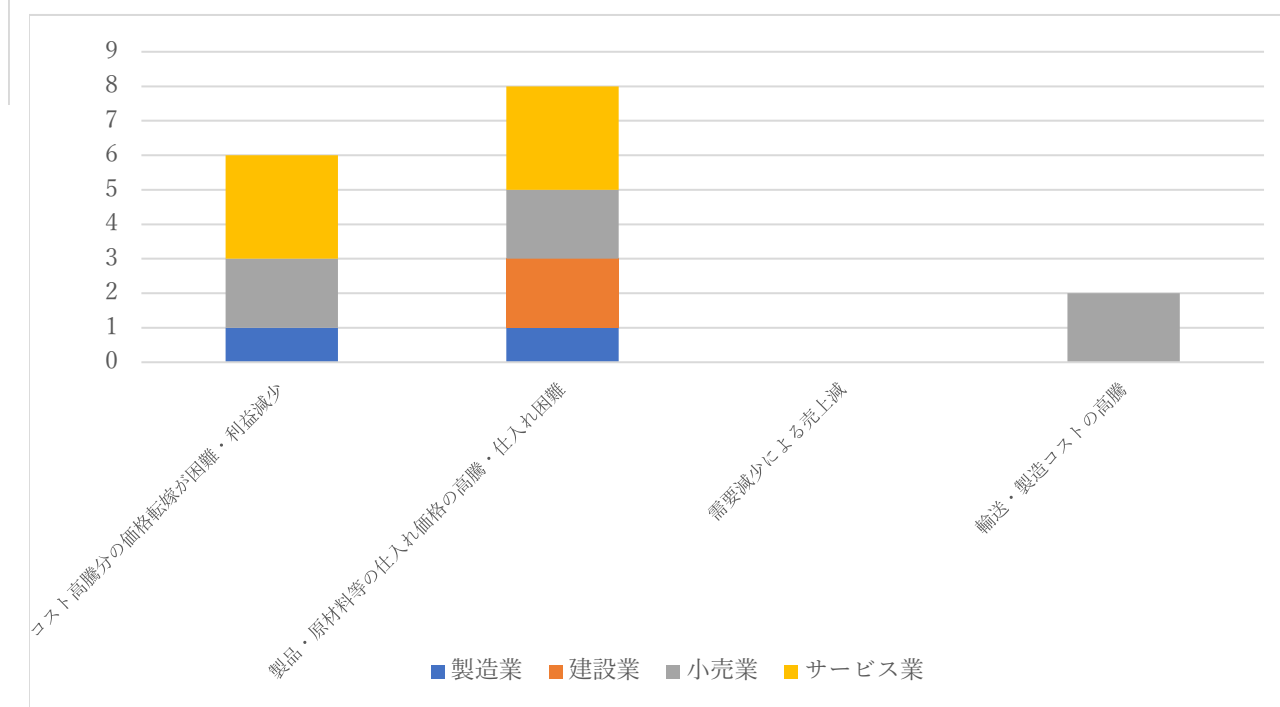


図3 原油価格高騰の具体的な影響の推移



- コロナ禍の影響は特に小売業で残っており、需要低下や仕入れ難が継続している様子が窺えるが、総じて徐々に落ち着きつつあると見ることができる。
- 一方で、新たな問題として原油価格の高騰が、経営に大きな影を落としている。全業種に亘って製品・原材料等の仕入れ価格高騰や仕入れ難につながっており、またその仕入れ価格の高騰分を販売価格に転嫁できない様子も窺える。
- 特にサービス業にて DI 値では販売単価が悪化していたが、これは仕入値高騰を価格転嫁できない状況を反映していると推測できる。

以上